

所属・資格 心理学科・教授

申請者氏名 内藤 佳津雄

研究課題		高齢者介護サービスにおける介護人材への心理的支援
報告の概要	研究目的 および 研究概要	介護人材の必要数の将来推計に対して不足することが指摘されている。介護サービスにおける働き方改革や生産性向上への取り組みも進められているが、人材定着・確保のための対策の1つとして心理的側面からのメンタルヘルスへの支援が有効であるとともに仕事に対する達成感や動機づけを高めるための人材育成の環境を整備することが有効であると言われている。本研究では、高齢者介護サービスの事業所や施設を対象として、介護職員へのストレスに着目したメンタルヘルス対策と動機づけ・人材育成支援の両面における課題について実務者へのヒアリングを中心として検討する。
	研究の 結果	社会福祉法人リガーレ暮らしの架け橋（京都市）において、統括的責任者から数カ所の小規模な介護事業所におけるストレスチェックの導入と成果についてヒアリングを行った。以下はその主な結果である。 ・ストレスチェックの結果は事業所単位で提供され、特定の傾向を示す項目が明確になる。課題としては、フィードバックのタイムラグがあり、調査から結果共有まで4か月程度かかることから状況が変化している場合がある。 ・事業所ごとのストレスやワークエンゲイジメントと相関が強いのは「上司のリーダーシップ」や「上司が部下の能力を伸ばす機会を提供する」といった項目であった。 ・法人としての見方としては、介護の専門性・倫理観として、ケアの標準化や適切なサービス提供の視点を提供できることとコミュニケーション能力として人間関係構築力：スタッフのメンタル面のケアや気配りができることが必要と考えているが両立が難しい場合も多い。
	研究の 考察 ・ 反省	本研究では、1つの法人の複数事業所のストレスチェックの結果を比較した内容をヒアリングでき、ストレスチェックの導入によって、小規模な介護事業所においても、従業員のストレスやワークエンゲイジメントに影響を与える職場環境を明確にできることが確認できた。そして、リーダーの行動が結果に強く関連していたが、ストレスチェックの集計後にその行動を短期的に変化させることは難しいことであり、継続的なリーダー養成が大きな課題と考えられた。 今後、50名未満の小規模事業場にもストレスチェック制度の導入が制度化されていくことが予定されているが、その導入にあたっては効果的な評価とその結果の解釈と対応について明らかにして支援することが必要であると考えられる。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>本研究成果は、今後の調査研究の予備的検討にあたるため、まだ研究発表・研究成果物はない。 次年度以降、調査研究を行うことで研究発表・研究成果物の作成を行う予定である。</p>	